



チバリョー パト!



ロビンソン・パトリク
Patrick Robison
2008年8月から国際交流員として、
浦添市役所国際交流課に配属される。
米国アイダホ出身。

文・英訳：ロビンソン・パトリク

アイダホ州といえば…日本庭園？

先月はアイダホ州の広さについて書きました。この広い空間の真中に、日本庭園があると言われたら、驚くのではないでしょうか？しかも、この庭園の設置において重要な役割を果たしたのは…なんと私の父なのです！少し説明しましょう。

私の故郷で、父がボランティアとしてパブリックアートに関する企画の仕事をしています。数年前から、ポカテロ市を訪ねる人々を歓迎するために、ポカテロ地方空港の玄関の前に「ポカテロへようこそ」という意味を伝える作品を設置しようという話が出ていました。父が色々考え、ポカテロ市の姉妹都市である岩見沢市（北海道）との関係を記念するために、日本庭園を造る提案を思い付きました。父は庭園工事の経験が無く、興味があっても日本庭園の詳細があまり分からなかったので、「作庭記」(1)の英訳本などで猛勉強し、できるだけ日本庭園の世界を理解しようと努力しました。

空港の管理者とポカテロ市の芸術協議会に提案を発表したら、皆が興味を持ってくださって、しばらくすると提案が承認されました。父が資金関係に力を入れ、その間、植物の選抜や、現場まで岩を運ぶ手伝い等、庭園の施工時に必要になる労働をしてくれるボランティアが次々に現れました。過去に日本庭園を数回造ったことのある、日系アメリカ人の友達が事業のアドバイザーを務めてくれました。一年以上かかりましたが、ボランティアの熱心な援助のおかげで、現在施工はほとんど終了し、今年の夏に岩見沢市から学生の団体がポカテロ市を訪問する際に、落成式が行われる予定です。

去年の11月、庭園の主な施工が終わった頃に、父が日本にいる私を訪ねてくることになりました。沖縄に来る前に、日本庭園事業の成功を祝う目的で一緒に京都へ行きましたが、そこでは、傑作といわれる代表的な日本庭園を見て回りました。日本庭園は、時間をかけて見れば見るほどその美的感覚・苦勞・忍耐力が伝わり、父も私も感銘を受けました。高校時代に日本語を初めて勉強し出した頃からずっと、日本の伝統文化に関心を持っている私が、父とその気持ちを分かち合うことができ、とても有意義な旅でした。

ポカテロ市の日本庭園は、京都で見た傑作の作風に従がわないところがたくさんあって、アメリカ的な日本庭園でもあります。これは決して悪いことではないと思います。日本庭園の概念から始まり、アイダホ州の景色の影響もたっぷり入っていますので、同時に地方の持ち味と国際観をうまく表現しているものだと思います。大切な時間と努力をこの事業に献身したボランティアの皆さん、そして父を誇りに思い、今後庭園にある桜の木の成長を観察することを、心から楽しみにしています。

(1)「作庭記」：平安時代に作成された日本の最も古い庭園書

The Idaho-Japan Connection

Last month I wrote about the wide open spaces to be found in my home state of Idaho. It might surprise you to learn that in the middle of all this open space, there is a beautiful Japanese garden. Even more surprisingly, my father, who had no previous experience in garden design, was instrumental in the creation of the garden! Let me explain.

My father often helps realize public art projects in my hometown. The organization he works with was asked to install some sort of art piece at the entrance to the local airport which would serve to welcome visitors to Pocatello. Exploring a number of possibilities, he eventually came up with the idea of creating a Japanese garden to commemorate our sister city relationship with the town of Iwamizawa on Hokkaido. He began furiously researching Japanese gardens and read a number of texts on the subject, including an English translation of the *Sakuteiki*(1).

After presenting the idea to the airport staff and arts council in our town, his proposal was approved. He devoted himself to fundraising for the garden, and a number of volunteers stepped forward to help with everything from choosing plants to helping move huge stones to the garden site. A Japanese-American friend of ours who had created several Japanese gardens in the past served as advisor for the project. It took over a year of hard work by volunteers to create the garden, which is now largely finished and ready to be inaugurated this summer, on the occasion of a visit to Pocatello by Japanese students from Iwamizawa.

Upon finishing construction of the garden last November, my father came to visit me. To celebrate the completion of the garden project, we traveled to Kyoto together to tour the Japanese gardens there. We saw as many gardens as time would permit, admiring all of the hard work, artistic skill and patience it took to create them. It was a very touching visit for me, sharing with my father the excitement and interest for traditional Japanese culture which I have felt since I started learning Japanese back in high school.

The Japanese garden in Pocatello is certainly different from the famous gardens I have seen in Japan, but I view this as a good thing – it takes the concept of a Japanese garden and adapts it to the landscape of Idaho, expressing both local flavor and an international outlook. I am very proud of my father and all of the volunteers who put so much time and effort into the project, and look forward to watching the cherry trees in the garden grow and mature over the years to come.

(1) *Sakuteiki*: Japan's oldest known text on gardening design. It is thought to have been written during the Heian period.

ハブ咬症注意報発令中

気温が暖くなる5月から6月はハブの行動が活発になり、ハブ咬症被害が多く発生しています。

ハブ対策の知識と理解を深め、ハブによる被害を防止しましょう。

もし、ハブに咬まれたら!

① あわてずに、ハブに咬まれたのかどうかを確かめます。

ハブに咬まれると、牙から入った毒が毛細血管を壊し、5分もしないうちに腫れと痛みをもたらします。

② ハブだとわかったら大声で助けを呼び、病院へ連れて行ってもらいます。

走ると毒の回りが速くなります。
ゆっくりと移動し車で病院に運んでもらいましょう。

③ 傷口から血と一緒に毒を吸い出します。

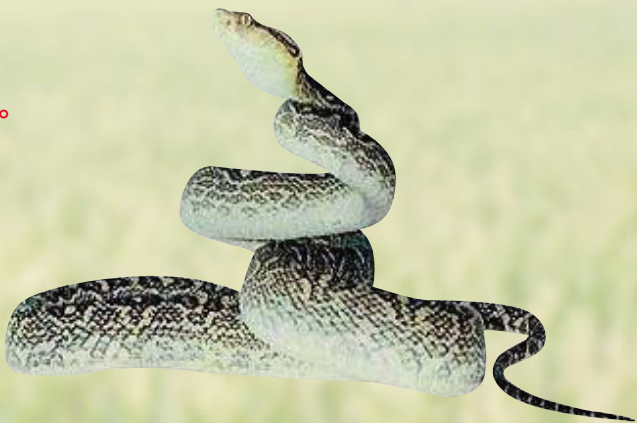
専用の吸引器や口で毒を吸い出します。
口の中に傷があると軽い炎症を起こすこともあります
心配いりません。また、毒を飲み込んでも、胃の中で消化分解されるので害はありません。

④ 病院まで時間がかかる場合は、指が1本入る程度にゆるく縛ります。

傷口から心臓に近い部分をゆるく縛ります。
強く縛ると血の流れが止まり、逆効果になることがあります。
また、必ず15分に1回はゆるめましょう。

※環境保全課ではハブ捕獲器の貸し出しを行っています。

問い合わせ 環境保全課 ☎876-1234 内線(3216) / 沖縄県衛生研究所ハブ研究担当 ☎946-6710



浦添市内ハブ等捕獲数

	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度
ハ ブ	87	83	83
アカマタ	54	47	40
その他	0	6	5
合計	141	136	128

ギャラソーてだこ



西新屋 奏七(5才)



野崎 輝良々(9才)



野崎 利寿々(7才)



伊禮 比奈(10才)



よなは あとむ(2才)



かかず まり(10才)

Gallery Tedako

作品募集

(テーマは自由です)はがきで送ってください!
〆切りは毎月12日迄

〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶1-1-1
浦添市役所国際交流課
☎876-1234 (内線2613・2614)